

八尾市教育センターNEWS

令和6年5月

所報：397号

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから



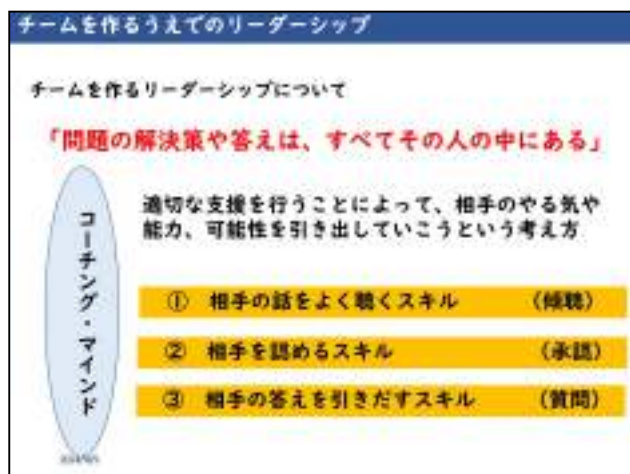
学校図書館システム操作説明会



令和6年4月9日（火）午前10時～午後12時・午後2時～午後4時、4月10日（水）午後2時～午後4時に学校図書館システム操作説明会を行いました。本市の小中・義務教育学校では、図書室の本をコンピューターで管理し、子どもたちはバーコードを読み取るだけで本を借りることができます。また、図書館にある本をキーワードから検索することができます。

↑ 当日使用したスライドの中から業者の許可を得て児童・生徒の操作画面としています。

10年経験者研修



↑ 当日使用したスライドの一部

令和6年4月9日（火）午後3時～午後5時に10年経験者研修①・養護教諭10年経験者研修①を行いました。開講にあたり、本センター 辻本 貴昭 所長より挨拶がありました。最初に「教職員の服務規律について」とのテーマで教育政策課 古海 裕士 指導主事から講義がありました。次に「OSAKA 教職員スタンダードから見るキャリアステージ」「組織づくり チームビルディング【理論】一人ひとりの能力や強みを生かした組織づくり」とのテーマで本センター 生田 祐敬 指導主事が講義を行いました。

<受講者感想>

- ミドルリーダーとして学校運営を進めていく中で、自分の強みを生かしていくことの大切さと、経験年数の少ない先生方へのサポートを行うことの必要性を認識することができた。
- 教職員の服務規律について、改めて自分の認識を正すことができた。職場の模範となるように自らの行動を律していきたい。

2. 服務とは

服務とは、公務員が職務遂行上又は公務員としての身分に伴って守るべき義務ないし規律のことをいう。

初任者研修②



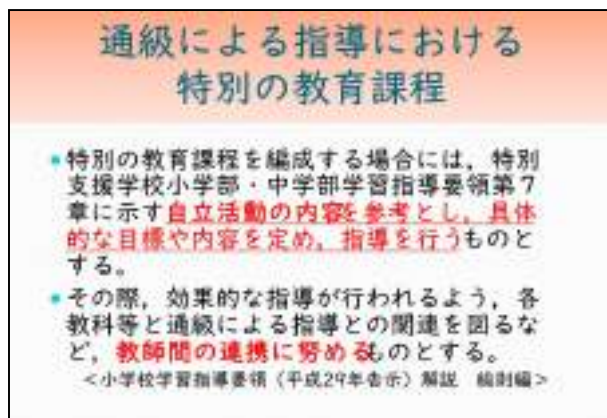
令和6年4月11日（木）午後3時～午後5時に初任者研修②を本センターで行いました。最初に「皆さんに期待すること ～子どもから信頼される先生になるためには～」と題して 浦上 弘明 教育長より講話がありました。

研修でも言及された浦上教育長の著書
「ウーさんの教育人生40年」（清風堂書店）

＜受講者感想＞

- ・教育長の話し方、間の取り方、関心のひきつけ方から、教育長の授業はきっと楽しかったんだろうなと感じた。授業力の向上など、すぐに成果を出せるものではないが、根気よく、子どもたち、保護者と向き合って、高めていきたい。
- ・授業力が本当に大切だと感じた。私は支援学級を担当しているが、自分と子どもとがうまくかみ合った際には、子どもたちは楽しそうに通常学級に戻っていく。授業の反応がすぐに返ってくる。やはり一人ひとりの子どもが楽しいと思える授業をするために教材研究が大切だと感じている。その為、浦上教育長が仰られていたように、子ども・保護者としてしっかりと信頼を築くために惜しむことなく努力を続けていきたい。
- ・初日から担任する教室のほとんどの児童と言葉を交わすことができた。しかし、学級づくりについてはまだまだ不安なことだらけであるが、管理職の先生をはじめ、先輩の先生方に教えを請い、子どもからも保護者からも他の先生方からも信頼されるような教員になりたい。

通級指導教室担当者会①（全体会）



↑ 岩井指導主事が使用したスライドの一部

＜受講者感想＞

- ・まずは指導開始のために、しっかりと準備をしていきたいと思う。昨年度とは若干環境も変わり自分の頭の中が整理できていなかった。今日の研修で整理できたように思う。
- ・今村先生の話の中にあつた、「生まれたときから、その感覚が普通だから周りもそう感じていると思っている、自分の視覚や聴覚が違うことが分からない」という言葉が印象的でした。子どもたちと関わる中で自分の中の「普通」を基準に考えると子どもたちの困り感に気づいてあげられないなと思ったので、頭の片隅にこの言葉を置きときながら関わっていききたい。

令和6年4月12日（金）午後3時30分～午後5時に通級指導教室担当者会①を本センターで行いました。講師は本センター 岩井 誠 指導主事で、令和6年度通級指導教室実施体制について説明しました。その後、一般社団法人 発達支援ルーム まなび の理事、今村 佐智子 さんより「通級指導教室を開くにあたって」と題して講義をしていただきました。

↓ 今村さんが使用したスライドの一部



- 初めての通級指導教室担当で見通しが持てにくい部分が多かったが、今回の研修で自分のやるべきことがはっきり分かった。一人ひとりの子どもの特性に合わせた支援をしていくことが大切だと感じた。子どもたちの見え方・聞こえ方によって手立ての方法が変わるということである。

ICT を活用した授業づくり研修①



↑研修で使用したスライドの一部

令和6年4月15日（月）3時30分～午後5時に ICT を活用した授業づくり研修①を本センターで行いました。講師は本センター 生田 祐敬 指導主事で研修テーマは「ロイロノート基本操作」です。

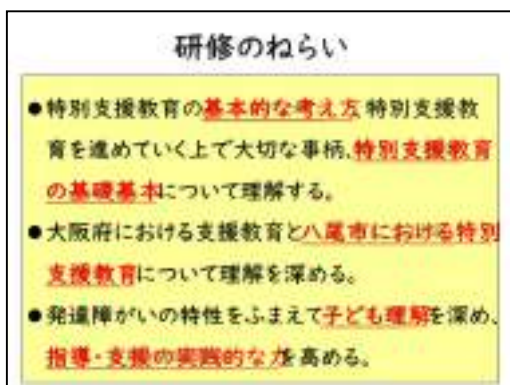
＜受講者感想＞

- 疑問に思っていたことが今回の研修で理解できた。教員の立場だけでなく、児童の立場からも試すことができ、児童が困

っている際にもスムーズに教えられて、とても効率の良い授業が行えるのではないかと感じた。

- スタンプ機能など新しく機能を学ぶことができた。校内でも他の先生方が使いやすくなるように、自分なりの工夫を広めていきたいと思う。「実践事例紹介ウェブサイト」は、自身も参考にしたいと思う。
- 基本的な操作についてしっかり理解することができた。二年間の育児休暇のうちに ICT を使うことが多くなっていて、一抹の不安があったので研修を受けてよかったと思う。

新任支援学級担当者研修



令和6年4月15日（月）3時30分～午後5時に新任支援学級担当者研修を本センターで行いました。講師は本センター 松原 由佳 指導主事で研修テーマは「新任支援学級担当教員の役割」です。

＜受講者感想＞

- 異校種の先生と話をし、児童生徒の違った様子など参考になることが多かった。特に授業づくりの工夫などについて交流できてよかった。
- 子ども一人ひとりのニーズをきちんと把握し、合理的配慮を行うことが大切だと思った。ナンバー布巾やタ

ブレットの活用事例を提示してもらったのは、実際の支援の仕方をイメージしやすかった。様々な実践を学び、取り入れていきたい。

- 保護者との信頼関係構築のお話はとても参考になった。保護者の不安を共感的に受け入れていくという姿勢を持ち続けたいと思う。また、子どもの良い面に目を向けて、日々の指導にあたっていきたい。

特別支援教育コーディネーター研修

令和6年4月16日（火）午後3時30分～午後5時に特別支援教育コーディネーター研修を本センターで行いました。講師は関西国際大学 中尾 繁樹 教授で研修テーマは「特別支援教育における自立活動のあり方」です。

＜受講者感想＞

- ・日本の支援教育と、イギリスやNYの支援教育の仕組みやシステムなどの違いにびっくりした。一人ひとりの子どもたちの実態をしっかりと把握するために、目でみる・手でみる・心でみるの3つのみる力を意識して、今後も目の前の子どもたちと関わっていききたいと思った。
- ・いろいろな見立ての仕方があるが、支援学級在籍だから、特別に気になるからなどにとらわれるのではなく、全ての子どもに配慮がいるという視点を全教職員がもつことが必要になると思った。
- ・今年度多様なニーズを抱えた生徒が多く、個別の支援計画や指導計画の立案、自立活動の計画など様々なことを考えるにあたって迷うところがあったが、運動機能と学習が両輪であることなど、生徒の実態に即した考え方のヒントをたくさん頂けて確信が得られた。

特別支援教育が普及・定着する意義

〇いじめ不登校を未然に防止する効果

〇教育的ニーズを把握し、それに対応した指導を行う → 障害の有無に関わらず児童生徒の確かな学力の向上や豊かな心の育成にも資する

〇教育水準や教員の専門性の向上

障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう共生社会

→ 特別支援教育の理念や基本的考え方が、国民全体に共有されることを目指す

↑ 当日使用したスライドの一部

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は4月から5月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「こころの科学」（日本評論社）5月号

- ・特別企画 感覚をめぐる子どもの困りごと

上記雑誌の中で●学校での支援を考える・・・感覚過敏等の感覚特性を有する子どもの食の困難と発達支援。という記事があります。「『食べる』という行為は自己の体内に『食物＝異物』を直接的に受け入れること」と言われてしまうとその通りで、馴染みのないものは食べ辛いものです。感覚過敏等の感覚特性を有する子どもの食の困難も様々である。調査資料等をもとに分析がなされています。最後に食の困難を有する発達障がい当事者の声が掲載されています。詳しくは当該記事をご覧ください。せっかくの食の時間が楽しみの時間になるようにできることもあるようです。（葭仲）

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）5月号

- ・特集1 「言葉づかいの乱れ」が気になるとき
- ・特集2 欠席が目立ち始めた子への“超”初期支援

上記雑誌の特集1には4本の記事が掲載されています。キーワードだけ拾ってみると①「コロナ禍」②「傾聴」③「子どもたち同士」④「自尊感情」となります。これらのキーワードだけでも文章が書けそうなくらいです。特集2については①「魅力的な授業、

学級づくり」②「教師の毎日の小さな営み」③「毎日が“不登校〇日目”」④「『不登校の芽』『ここ掘れポイント』」と、これもありふれた内容です。でも、どれも素晴らしい実践報告です。つまり、1の場合も2の場合も「特効薬」というより地道な努力を続けることが結果につながるということでしょうか。ではどんな努力が必要なのか、ご一読いただければと思います。
(葭仲)

「指導と評価」（日本教育評価研究会）5月号

- ・特集1 主体的・対話的で深い学びがめざすもの（2）
- ・特集2 課題予防的生徒指導をよみとく

「道徳教育」（明治図書）5月号

- ・永久保存版 道徳の授業技術大全

「月刊学校教育相談」（ほんのもり出版）5月号

- ・特集1 「言葉づかいの乱れ」が気になるとき
- ・特集2 欠席が目立ち始めた子への“超”初期支援

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育連盟編集・東洋館出版社）5月号

- ・特集 わくわく、いきいき！楽しみながら力が育つ「各教科等を合わせた指導」
～成長を実感できる授業へのヒント～

「初等教育資料」（文部科学省編集・（株）東洋館出版社）5月号

- ・特集Ⅰ 各教科における指導の充実・改善②
- ・特集Ⅱ 学習指導要領における指導のポイント[外国語活動・外国語]
小学校外国語教育と中学校外国語教育の連携の充実

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）5月号

- ・特集「OECD 生徒の学習到達度調査 2022 年調査（PISA2022）」の結果を踏まえた今後の対応

教育科学「国語教育」（明治図書）5月号

- ・特集 新教材・定番教材の授業がもっとうまくいく！「最強板書」80

教育科学「社会科教育」（明治図書）5月号

- ・特集 多様な考えを引き出す！主体性を考える発問づくり